

視察報告書

令和4年1月6日（木）

中村 誠

令和4年1月6日

松阪市議会議長 堀端 脩 様

中村 誠

広報研修会に参加しましたので報告いたします。

記

1. 日時 令和3年12月23日
2. 研修会名 YouTuber から学ぶ動画作成のコツ
3. 研修会場 カリヨンプラザ1階会議室 松阪市日野町788番地
4. 講師 株式会社 RiSSHi 代表取締役・新井 康陽
5. 研修項目
 - ①どんな動画を作れば市民の皆様に見ていただけるか。
(視聴回数増加や最後まで視聴する人の少なさ等の課題を
是正するためにどのようなことをしていくべきか)
 - ②発信だけでなく、声を聴くためのデジタル手法はあるの
か。

1. 研修内容

①YouTube の特徴

総務省「令和2年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書概要」によると YouTube は40代以下の人たちは利用率90%を超えると言われる。

一般的に YouTube の伸ばすために必要と言われているポイント

- ・ サムネイル → 視聴回数、クリック率
- ・ タイトル → 視聴回数、クリック率
- ・ 動画内容 → 視聴時間

どんな画像や内容なのかがひと目で分かるように縮小画像で見せることを「サムネイル表示」という。

サムネイルとタイトルでどれだけ興味を持ってもらえるかが重要。

インパクトがあって目を引く画像プラス、サムネの文字、タイトルでどんな内容なのかわかりやすくする必要があり、多くて10文字程度、赤、黄色の文字を使い目立たせることが肝要。

又、目を引くワードをタイトルに使いなど工夫する。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ w・集・鬱・闇・底辺・絶対・実態・暴露・悲報・速報・無料・挫折・驚愕・過激・ 衝撃・注意・年収・3秒・10秒・30秒・3分・5分・3選・5選・号泣・〇〇・BAN・ 神回・結果・TOP5・もしも・まとめ・丸ごと・丸一日・勝手に・裏事情・大爆笑・ 裏技・リアル・2021年・あまり・ブチ切れ・放送事故・閲覧注意・腹筋崩壊・削除覚悟・ 重大発表・ガチギレ・ドッキリ・神回キタw・エグすぎた・大パニック・～してはいけない・実は〇〇だった・お話しします・まさかの結果に・元〇〇が教える 等 |
|---|

導入部分にも飽きさせない工夫が必要である。

※動画内容によるが、SE（効果音）、BGM、テロップは重要であり開いて観ているだけでは辛くなり、長時間の視聴は期待できない。

②松阪市議会の YouTube チャンネル

講師から見た改善点として。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ タイトルやサムネイルからどのような内容の動画なのか読み取れない |
| <ul style="list-style-type: none">・ 一般人からするとよく分からない言葉が羅列している |
| <ul style="list-style-type: none">・ 内容が表面的で、色々な話題が入りすぎている |

が挙げられた。

- ・課題解決のポイントとして。
- ・チャンネルの趣旨とターゲットの明確化。
- ・動画の構成はその動画の目的(誰が/誰に/何を/何のために) が伝わるようにする。
- ・その後は企画のブラッシュアップと、サムネ・タイトルを しっかり作り込む。
- ・誰でも分かる言葉で伝える。

専門家はどうしても一般人目線になりづらく無意識で難しい言葉を使ってしまいがち。

- ・その中で何故 YouTube で出すのか、それぞれのターゲット（世代）に何を伝えたいのかを考察する。
- ・市民がどういった情報を求めているかを知る。

③市会議員として YouTube に出したい情報として参加議員による意見交換を行う。

- ・子育て関連情報
- ・保育園入園情報、待機児童問題、統廃合問題
- ・コロナ対策
- ・フルマラソンに関すること
- ・高齢者施設入所状況
- ・お悔みコーナー
- ・委員会活動（常任委員会での議論）

が挙げられた。

4. 所感

言葉は悪いが、現状のままの動画配信では、議会としての自己満足で、ただ情報を流しているだけであり、伝えようとしていないのかもしれない。

市民目線に沿った、今知りたい情報を細かく伝えていく方法が必要であると感じる。

全体の報告もよいが、範囲が広すぎて情報がぼやけている、各委員会毎のリアルタイムな情報発信を構築してもよいのではと考える。

今後は、長時間の動画でなくともよいので適度な間隔（毎月 1～2 回）配信出来ればと思うが、時間の制約を考慮しないと難しい。

最後に、発信だけでなく、声を聴くためのデジタル手法はあるのかについては技術的な部分も多く現状ではアンケート方式が妥当であるが、今後の研究課題である。